

社会福祉施設連絡会通信(No.42)

へ要望書の提出

皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

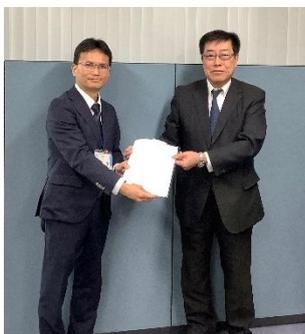
今回は、要望書の提出、研修会や広報物などの取り組みをご報告いたします。

【「医療・介護等支援パッケージ」及び「重点支援地方交付金」による社会福祉施設への物価高騰対策ならびに処遇改善に関する緊急要望】

令和7年11月28日に「医療・介護等支援パッケージ」及び「重点支援地方交付金」による支援の実施を閣議決定されました。

物価高騰対応重点支援地方創設臨時交付金「重点支援地方交付金」については、「エネルギー・食料品価格高騰への継続的支援を推奨事業として更なる追加の旨が盛り込まれております。社会福祉法人は、厳しい社会情勢のなかにあっても福祉サービスを維持・継続し、生活困窮や孤独・孤立対策、災害支援や地域における広域的な取り組みなどセーフティネットの役割を果たし、地域住民の生活を守り、社会・経済活動を支え続けていますが、終わりの見えない物価高騰により、社会福祉法人経営はこれまでに例を見ないほどに深刻な状況にあります。

社会福祉施設への物価高騰対策ならびに処遇改善について、社会福祉施設連絡会は、高齢・障がい・児童分野の社会福祉法人の共通課題であるとして、令和7年12月11日(木)に八尾市健康福祉部河野部長に「医療・介護等支援パッケージ」及び「重点支援地方交付金」による社会福祉施設への物価高騰対策ならびに処遇改善に関する緊急要望を提出しました。



◀河野健康福祉部長

【施設連絡会でブース出店しました!】

1. 日時 令和7年10月12日(日)
午前10時~午後3時30分
2. 場所 八尾市立社会福祉会館
3. 内容 八尾市のボランティアグループによる活動発表や、体験イベントの実施

八尾市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、広く市民にボランティア活動について周知する機会として、「ふれあいフェスタ」を開催いたしました。

今年度は1つのコーナーとして、施設連絡会加入の障がい分野の施設で販売されているお菓子等の飲食物、小物等の販売コーナーを設置し、当日は大勢の参加者が手に取られ、午前中で完売する授産品もあり大盛況でした。

ご協力いただきました参加施設のみなさまありがとうございました。(協力施設:風の会「共働作業所風」・恵生会「しきファーム」・信貴福祉会「りんごの木」・未来波「きっとわーくす」)



▲当日の様子

【第2回 施設連絡会研修会】

1. 開催日

12月19日（金）午後2時～午後4時

2. 場所

八尾市文化会館（プリズムホーム）4階

3. プログラム

【基調講演】

テーマ 「多機関・多分野が協働した包括的な支援体制の構築に向けて」

講師 摂南大学現代社会学部

講師 上野山 裕士 氏

【グループワーク】

テーマ

「社会福祉法人の地域貢献をテーマにした事例検討」

○研修参加者 34名

（高齢11名・障がい6名・児童9名）

（社協 8名）

荒井会長より研修会の開催にあたり「人口減少や少子高齢化を背景に、地域コミュニティの希薄化など生活課題や地域課題を解決する仕組みが弱くなっています。一方、世帯の生活課題は複雑化・複合化していることから、高齢・障がい・児童などの分野を超えてつながる多機関連携の期待が高まっています。

また、12月11日（木）八尾市長に対し、「社会福祉施設への物価高騰対策ならびに処遇改善に関する緊急要望」書を提出しました。今回の研修会では、事例を通じた「ワークショップ」を予定しており、是非、同じ地域の社会福祉法人として交流を深めてもらいたい。」と挨拶がありました。



▲荒井会長より開会の挨拶

【基調講演】

上野山先生からは、「多機関・多分野が協働した包括的な支援体制の構築に向けて」をテーマに、「地域共生社会の実現」の考え方や多分野での協働について分かりやすく講義がありました。

また、そのためにはだれと、なんのために、どうやって協働するのか、個々人（各施設など）が社会資源として活躍し、それぞれの「得意」を組み合わせることが大切とお話がありました。



【事例検討】

事例検討では、各保健福祉圏域に分かれ、各グループに高齢・障がい・児童施設の職員が配置されました。各グループ5～6名で事例検討を行いました。事例は、「孤独死や社会的孤立のリスクが高まっている地域について」「施設と地域の繋がりが薄い地域課題について」の2つをテーマに、

1, 自分の施設で行っている地域貢献事業

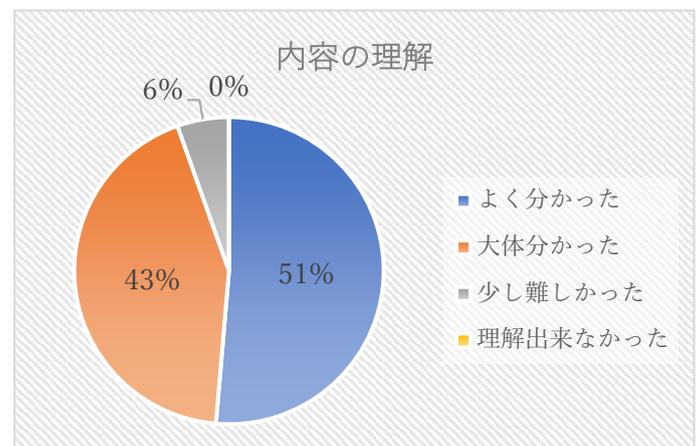
2, これから考えられる地域貢献事業について

意見交換を行いました。

事例検討の後、各グループから発表を行いました。参加者は他のグループで出された意見にも熱心にメモをし、耳を傾けている姿が印象的でした。

【参加者アンケート集計結果】

「よく分かった（51%）」と「大体分かった（43%）」を合わせると約9割の参加者が研修内容を理解していました。参加対象が10年未満の職員対象であったことから「少し難しかった（6%）」と回答した方が約1割となっていました。



自由記述では、

「様々な事業があり、知ることが出来た。」

「横の関係でつながっていくことや、共有していく



こと、地域づくりをしていく中で協働していく大切さを知りました。」

「分野が違い、施設での取り組みや考えられる事業が共通しているところもあり、話し合いを行うことで、これからの取り組みや、他施設との交流が前向きに進んでいくように感じた。」などの意見がありました。

【社会福祉施設連絡会・民生委員児童委員協議会・地区福祉委員会役員交流会 (第3回 施設連絡会研修会)】

1. 開催日

12月23日(火)

午後1時30分～午後3時30分

2. 場所

八尾市立社会福祉会館

3. プログラム

(1) 実践報告

「吹田市社会福祉協議会による地域福祉の取り組み」

講師 吹田市社会福祉協議会

事務局長 広田 倫久 氏

(2) 意見交流会

「多機関・多職種協働による福祉のまちづくり」

コーディネーター

一般社団法人ボランティアセンター支援機構

おおさか代表理事

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰

新崎 国広 先生

○交流会参加者 42名

施設連絡会役員 7名

(高齢4名・障がい2名・児童1名)

地区福祉委員会 10名

民生委員児童委員 5名

行政 6・府社協 1名

社協 13名

地区福祉委員会活動・組織と、民生委員児童委員協議会、社会福祉法人の特性や強みを活かした連携ができるような関係性の構築を図るため、各団体役員同士での交流会を開催しました。



【実践報告】

吹田市社会福祉協議会 広田局長から吹田市での地域福祉の取組みについてご報告がありました。吹田市での各種団体との連携では、年1回施設連絡会の研修会に、地区福祉委員会、民生委員児童委員へも参加を呼びかけ、一緒に地域づくりを検討していく場を設けて顔の見える関係構築を図っていることが話されました。また、連携協働事例として、ふれあい昼食会に行けない高齢者を個別支援担当職員がニーズキャッチし、地区福祉委員会や施設連絡会と協議し何ができるのかを検討し、施設の送迎車両を使用し送迎支援が実現したことが挙げられました。また日頃からの関係づくりが災害時の取組みにも活かされているとご報告がありました。



【意見交換会】

各圏域ごとにグループに分かれ、以下の意見交換を行いました。

1. 「吹田市の取組みを聞いた感想」

「施設車両を使用した送迎は非常に参考となり、どのように連携していくのか今後話し合いたい」など、前向きな意見が出ました。

2. 「八尾市で今後なにができるのか」

「地区や圏域を超えた連携が出来れば活動の幅が広がっていくのではないか」「学校や若者との連携をしていきたい」「それぞれの団体の強みや専門性を活かすことができると可能性が広がる」などの意見が出ました。

府社協徳本社会貢献室長からは、八尾市での社会福祉法人の地域貢献事業が先駆的で、各団体間のつながりも強く幅広い取り組みを実施されています。また、参加者が笑顔で楽しく意見交換をしている様子を見て八尾市での連携協働の取組みが楽しみであ



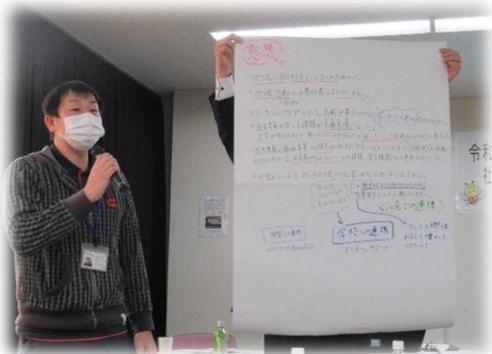
【交流会】

ると意見いただきました。

また、八尾市健康福祉部岡本次長からは、行政としてもこのような地域活動のネットワークに参画していきたいとのコメントをいただきました。



▲グループワークの様子



▲各グループより発表

【総括】

新崎先生より、各種団体が顔のみえる関係が出来ることで、地域のさまざまな人たちの出会いとつながりを創り出し、また社会的孤立をなくし、誰ひとり取り残さない社会を創るため、3団体が連携協働することの必要性をお話いただきました。



▲新崎先生より総括

【事務局】

今回は初めて施設と地域、民生委員の交流会を実施し、非常に熱量のあるグループワークとなりました。具体的な事例があがり、自分の地区でもできるかもしれないという声もあり、今後は各圏域ごとに協議を重ねて参ります。

【地域貢献事業の取組みが新聞に掲載】

大阪の社会福祉法人が取り組む「大阪しあわせネットワーク」が10周年を記念し、11月21日の新聞広告として4つの新聞に大阪府下の地域貢献事業の取組みが掲載されました。八尾市の取組みは、毎日新聞の朝刊に掲載されました。

「八尾モデル」と呼ばれる高齢・障がい・児童分野の施設が参画し、輪番でリーダー施設を置き複数体制で支援を実施しているCSW連絡網についての説明や、行政・社協・社会福祉法人が三位一体となり連携協働し、複合的な地域課題の解決に向け取り組んでいく重要性が掲載されています。

インタビューには、八尾隣保館・あすか八尾・信貴の里・ホーム太子堂の方にご協力いただきました。ご協力ありがとうございました。



▲インタビューの様子



▲集合写真

連絡先 八尾市社会福祉協議会
社会福祉施設連絡会事務局 前川・山形・中辻